

# 性能的性格(3)

## — 妥当性の検討 —

川 島 大 司

### はじめに

これまでの性能的性格の研究(日本応用心理学会大会, 2002～2006)や作業態度の研究(日本教育心理学会総会, 2003～2005)では、性能的性格や作業態度についての自己評定と実際の作業成績の関連を基準関連妥当性の形で行ったが、両者間に関連はあまり認められなかった。

本研究では、ワープロに係る資格検定結果(2級以上・3級合格者、不合格者)と、表計算に係る資格検定結果(2級以上・3級合格者、不合格者)を性能的性格や作業態度についての自己評定と実際の作業成績から予測することが可能であるかを検討した。

### I. 予測の妥当性の検討 1

#### 1. 目的

比較的長期(2～3年)にわたる予測の妥当性を検討する方法で、ワープロに係る資格検定結果(2級以上・3級合格者、不合格者)と性能的性格検査、作業態度の自己評定値、実際の作業成績との関連性を検討した(川島・久米, 2007)。

#### 2. 方法

##### (1) 被験者

東海の私立女子大学の卒業生

##### (2) 材 料

性能に関する自己評定尺度(E P - S, S E C - S)と作業検査(C E L - S、ワープロ練習検査、数系列完成、鏡映描写)

##### (3) 手続き

ワープロ操作の習熟度(可否)は検定協会が主催するワープロ検定を受験してもらう。練習は、強制的に練習させるのではなく、各自で自由に練習してもらう。この間、性能に関する自己評定尺度(E P - S, S E C - S)で自己評定してもらい、その後、作業検査(C E L - S、ワープロ練習検査、数系列完成、鏡映描写)を実施した。

各検査の処理尺度を以下に示す。

- |              |   |
|--------------|---|
| 1. E P - S   | 慎重・綿密型 5 段階点<br>敏捷・てきぱき型 5 段階点<br>勤勉・こつこつ型 5 段階点  |
| 2. S E C - S | 慎重・緻密性 5 段階点<br>判断・推理力 5 段階点<br>遵守性 5 段階点<br>てきぱき・敏捷性 5 段階点<br>気遣度 5 段階点<br>根気性 5 段階点<br>意欲 5 段階点 |
| 3. C E L - S | 試行数 C 得点<br>見落とし率 C 得点  |
| 4. ワープロ練習    | 入力時の作業態度<br>注意の持続度  |
| 5. 数系列完成     | 正解数 C 得点  |
| 6. 鏡映描写      | はみ出し数 C 得点  |

### 3. 結果と考察

大学へ入学してから卒業するまでの間に、ワープロ検定を受験する機会は1年間に4回ある。特に1年の後期には授業の中で3級のレベルを指導し、ほぼ全員の受講者に3級の試験を受験してもらう。それ以後卒業するまでは、強制的に受験をさせるのではなく、希望すればどのレベルでも受験可能である。また、指導については、定期的な機会を設けるのではなく、質問にあればその都度対処するという形をとっている。

このようにして、4年間でワープロ検定の2級以上を取得した者、3級を取得した者、資格を持っていない者の3グループに分け、各検査の処理尺度について平均値の差の検定を行った。有意差の認められたものについての結果を表1に示す。E P - S 検査の2級以上と3級だけ、S E C - S 検査の3級だけと資格なしは、有意差が認められなかった。

E P - S 検査の慎重・綿密性、勤勉・こつこつ型では、3級だけ・2級以上と資格なしに差が出ている。特に勤勉・こつこつ型では有意水準が1%となっている。またS E C - S 検査の慎重・綿密性、意欲では、

表 1. 性能的性格検査とワープロ検定の取得級との関連  
EP-S

比較対照群	慎重・綿密型				勤勉・こつこつ型			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対 資格なし	82	7.6	2.95	* 1.973	82	8.9	3.18	** 3.507
3級だけ取得 対 資格なし	175	6.8	3.06		175	7.4	3.23	
2級以上取得 対 資格なし	138	7.5	2.79	* 1.841	138	8.2	3.01	** 2.437
3級だけ取得 対 資格なし	175	6.8	3.06		175	7.4	3.23	

## SEC-S

比較対照群	慎重・綿密型				意欲			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対 3級だけ取得	93	5.9	1.81	* 1.897	93	2.2	0.90	1.563
2級以上取得 対 資格なし	158	5.5	1.76		158	2.0	0.91	
2級以上取得 対 資格なし	93	5.9	1.81	* 1.979	93	2.2	0.90	* 1.939
3級だけ取得 対 資格なし	218	5.5	1.81		218	2.0	0.85	

## ワープロ練習

比較対照群	入力時の作業態度				注意の持続度			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対 3級だけ取得	77	34.5	22.54	0.551	77	2.4	0.93	* 1.847
2級以上取得 対 資格なし	131	32.8	22.11		131	2.2	0.83	
2級以上取得 対 資格なし	77	34.5	22.54	-0.856	77	2.4	0.93	* 1.837
3級だけ取得 対 資格なし	150	27.2	20.73		131	2.2	0.83	
3級だけ取得 対 資格なし	131	32.8	22.11	* -1.715	131	2.2	0.83	-0.125
3級だけ取得 対 資格なし	150	37.2	20.73		150	2.2	0.75	

有意水準 \*…5% \*\*…1%

2級以上と資格なしに差が出ている。

この2つの検査はいずれも性能的性格検査の作業態度の自己評定値である。実際の作業成績では、CEL-S、数系列完成、鏡映描写では差がなく、ワープロ練習の注意の持続度では、2級以上と3級だけ、2級以上と資格なしに差が出ている。これらのことから、実際の作業成績ではワープロに係る検定結果を予測するのは難しいが、性能的性格検査の作業態度の自己評定値からは、ある程度予測が可能ではないかと思われる。

また、これまでの性能的性格、作業態度の研究から自己評定と実際の作業成績の間に関連はあまり認められなかったことから実際の作業成績では予測するのが難しい。

## II. 予測の妥当性の検討 2

### 1. 目的

比較的長期(2～3年)にわたる予測の妥当性を検

討する方法で、表計算に係る資格検定結果(2級以上・3級合格者、不合格者)と性能的性格検査、作業態度の自己評定値、実際の作業成績との関連性を検討した(川島・久米,2008)。

## 2. 方法

### (1) 被験者

東海の私立女子大学の卒業生

### (2) 材料

性能に関する自己評定尺度(EP-S, SEC-S)と作業検査(CEL-S, 数系列完成, 鏡映描写)

### (3) 手続き

表計算操作の習熟度(可否)は検定協会が主催する表計算検定を受験してもらう。練習は、強制的に練習させるのではなく、各自で自由に練習してもらう。この間、性能に関する自己評定尺度(EP-S, SEC-S)で自己評定してもらい、その後、作業検査(CEL-S, 数系列完成, 鏡映描写)を実施した。

各検査の処理尺度を以下に示す。

- EP-S 慎重・綿密型5段階点  
敏捷・てきぱき型5段階点  
勤勉・こつこつ型5段階点
- SEC-S 慎重・緻密性5段階点  
判断・推理力5段階点  
遵守性5段階点  
てきぱき・敏捷性5段階点  
気遣度5段階点  
根気性5段階点  
意欲5段階点
- CEL-S 試行数C得点  
見落とし率C得点
- 数系列完成 正解数C得点
- 鏡映描写 はみ出し数C得点

## 3. 結果と考察

大学へ入学してから卒業するまでの間に、表計算検定を受験する機会は1年間に4回ある。特に1年の後期には授業の中で3級のレベルを指導し、ほぼ全員の受講者に3級の試験を受験してもらう。それ以後卒業するまでは、強制的に受験をさせるのではなく、希望すればどのレベルでも受験可能である。また、指導については、定期的な機会を設けるのではなく、質問にあればその都度対処するという形をとっている。

このようにして、4年間で表計算検定の2級以上を取得した者、3級を取得した者、資格を持っていない

表 2. 性能的性格検査と表計算検定の取得級との関連  
EP-S

比較対照群	慎重・綿密型				勤勉・こつこつ型			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対	42	8.3	2.86	* 2.191	42	9.5	3.16	** 2.74
3級だけ取得	242	7.2	2.83		242	8.1	3.06	
2級以上取得 対	42	8.3	2.86	** 2.916	42	9.5	3.16	** 3.613
資格なし	249	6.9	2.87		249	7.7	3.1	

## SEC-S

比較対照群	慎重・綿密型				意 欲			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対	52	6.3	1.60	** 2.953	52	3.9	1.43	* 2.574
3級だけ取得	289	5.5	1.77		289	3.4	1.21	
2級以上取得 対	52	6.3	1.60	** 3.253	52	3.9	1.43	* 2.235
資格なし	266	5.4	1.76		266	3.43	1.26	

## SEC-S

比較対照群	入力時の作業態度				注意の持続度			
	n	M	SD	t	n	M	SD	t
2級以上取得 対	52	2.0	1.04	* 2.389	52	2.4	0.93	* 2.179
3級だけ取得	289	1.7	0.80		289	2.1	0.88	
2級以上取得 対	52	2.0	1.04	** 3.389	52	2.4	0.93	** 2.903
資格なし	266	2.5	1.24		266	2.0	0.85	
3級だけ取得 対	289	1.7	0.80	* 2.253	289	2.1	0.88	
資格なし	266	2.5	1.24		266	2.0	0.85	1.188

有意水準 \*…5% \*\*…1%

者の3グループに分け、各検査の処理尺度について平均値の差の検定を行った。有意差の認められたものについての結果を表2に示す。EP-S検査の3級だけと資格なしは、有意差が認められなかった。

EP-S検査の慎重・綿密性、勤勉・こつこつ型では、2級以上取得と3級だけ、2級以上取得と資格なしに差が出ている。特に勤勉・こつこつ型では有意水準が1%となっている。またSEC-S検査の慎重・綿密性、判断・推理力、根気性、意欲では、2級以上取得と3級だけ、2級以上と資格なしに差が出ている。特に慎重・綿密性、根気性、意欲では、2級以上取得と資格なしで、有意水準が1%となっている。この結果は、ワープロ操作では現れなかった。これは、ワープロ操作は文書を見て入力するだけで、練習を繰り返せば、習熟度が上がりやすいが、表計算検定は少し論理的な考え方が必要になるからではないと思われる。

この2つの検査はいずれも性能的性格検査の作業態度の自己評定値である。実際の作業成績では、CE

L-S、数系列完成、鏡映描写では差がなく、これらのことから、実際の作業成績では表計算に係る検定結果を予測するのは難しいが、性能的性格検査の作業態度の自己評定値からは、ある程度予測が可能ではないかと思われる。

また、これまでの性能的性格、作業態度の研究から自己評定と実際の作業成績の間に関連はあまり認められなかったことから実際の作業成績では予測するのが難しい。

### Ⅲ. 全体的考察

予測の妥当性の検討1では、EP-S検査の慎重・綿密性、勤勉・こつこつ型では、3級だけ・2級以上と資格なしに差が出ている。またSEC-S検査の慎重・綿密性、意欲では、2級以上と資格なしに差が出ている。この2つの検査はいずれも性能的性格検査の作業態度の自己評定値である。実際の作業成績では、CEL-S、数系列完成、鏡映描写では差が出ていない。

予測の妥当性の検討2では、EP-S検査の慎重・綿密性、勤勉・こつこつ型では、2級以上取得と3級だけ、2級以上取得と資格なしに差が出ている。またSEC-S検査の慎重・綿密性、判断・推理力、根気性、意欲では、2級以上取得と3級だけ、2級以上と資格なしに差が出ている。実際の作業成績では、CEL-S、数系列完成、鏡映描写では差が出ていない。

このようなことから、実際の作業成績ではワープロに係る検定結果、表計算に係る検定結果を予測するのは難しいが、性能的性格検査の作業態度の自己評定値からは、ある程度予測が可能ではないかと思われる。

また、これまでの性能的性格、作業態度の研究から自己評定と実際の作業成績の間に関連はあまり認められなかったことから、実際の作業成績では予測するのが難しい。

### 参考文献

- 川島大司・久米稔 2007 性能的性格(6)  
ー予測の妥当性の検討1ー, 日本応用心理学会第74回論文集
- 川島大司・久米稔 2008 性能的性格(7)  
ー予測の妥当性の検討2ー, 日本応用心理学会第75回論文集